

# 2013年9月期 決算説明資料 (2012年10月-2013年9月)

## 株式会社FPG

(code:7148)

東証1部



2013年10月

2013年9月期 業績の総括	P2
各四半期別売上高の推移について	P4
2013年9月期 レビュー	P5
2013年9月期 レビュー(その他事業・トピックス)	P6
2013年9月期 トピックス	P7～P9
2013年9月期 営業概況	P10
2013年9月期 タックス・リース・アレンジメント事業の状況	P11～P12
2013年9月期 出資金販売から得られる手数料収入	P13
株式分割及び株主優待について	P14
2013年9月期 配当予想	P15
2013年9月期 財務ハイライト	P16
2013年9月期 損益計算書	P17
2013年9月期 貸借対照表	P18
2013年9月期 キャッシュフロー計算書	P19
B/Sにおける当社の特徴(自己資本比率について)	P20
2014年9月期 業績予想 中期的な経営戦略	P21～P25
事業概略図 収益構造の多角化に向けた取組み	P26
主要な経営指標の推移	P27

# 2013年9月期 業績の総括



# 2013年9月期 業績ハイライト

上場に伴う信用力・知名度の向上、復興需要や法人税率の引き下げ期待を背景に、業績好調な投資家からの需要が強く推移し、また、積極的な人材採用による営業部門の強化、会計事務所や金融機関を紹介者とする販売ネットワークの拡充による販売力の向上とあいまって、通年を通して、総じて好調に推移しました。

その結果、売上高は4,012百万円（前年同期比1,210百万円増）と好調に推移し、伸長しました。

一方、組成・販売コスト、人員増強等のコストが増加するも、売上の増加が当該コストを吸収し、売上・利益面において、対前年同期比で大幅な増収増益を達成いたしました。

## 実績

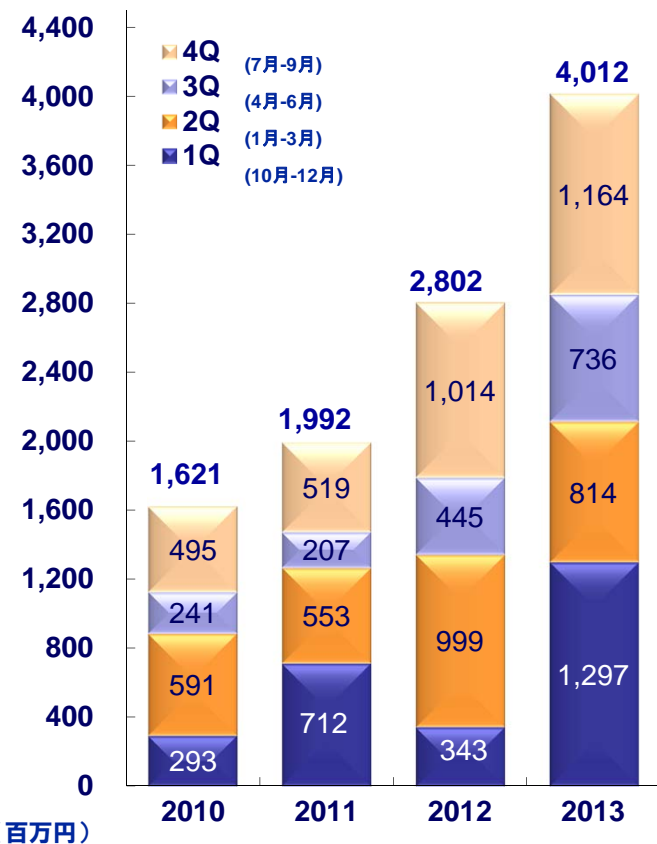
【百万円】	2012年9月期	2013年9月期	対前年同期増減	対前年同期増減率
	実績（個別）	実績（連結）		
売上高	2,802	4,012	1,210	43.2%
営業利益	1,438	2,084	646	44.9%
経常利益	1,392	1,961	568	40.8%
当期純利益	793	1,185	392	49.5%
リース事業組成金額	47,289	98,395	51,106	108.1%
出資金販売額	19,785	25,617	5,832	29.5%

※ 2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しているため、2012年9月期第の数値は、参考値として個別業績の数値を記載しております。

# 各四半期別売上高の推移について

投資家がリース事業に出資するか否かの意思決定は、投資家自身の業績動向が判明する決算月近くに行われる傾向があります。

そのため、当社の売上高は、当社案件に投資していただく投資家の決算月（9月・3月決算）が集中する当社の第2四半期及び第4四半期に比較的偏重する傾向がありますが、当期においては、前期に引き続き復興特需企業からの出資ニーズ、事業継承による大口出資等も見られるなど、予想以上に旺盛な投資家（顧客）からの強い引き合いに対応すべく出資金を前倒して販売したこと等から、通年を通して好調に推移しました。



単位：百万円	第1四半期 会計期間	第2四半期 会計期間	第3四半期 会計期間	第4四半期 会計期間	通期
	10月から12月	1月から3月	4月から6月	7月から9月	合計
2011年9月期					
売上高	712	553	207	519	1,992
売上高割合	35.7%	27.8%	10.4%	26.1%	100%
2012年9月期					
売上高	343	999	445	1,014	2,802
売上高割合	12.2%	35.7%	15.9%	36.2%	100%
2013年9月期					
売上高	1,297	814	736	1,164	4,012
売上高割合	32.3%	20.3%	18.4%	29.0%	100%

※ 2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しており、それ以前の数値は、参考値として個別業績の数値を記載しております。

営業面

タックス・リース・アレンジメント事業

組成・販売面

## ▶ **良好な販売環境**

復興特需に代表されるような突発的な利益の発生や事業継承に対応する税務対策など、投資家（顧客）からのニーズは旺盛。極めて好調な販売環境を背景に投資家需要を取り込み、出資金販売が拡大。

## ▶ **販売網の拡大**

投資家（顧客）紹介者となる、会計事務所及び地銀を中心とした金融機関との販売ネットワークの開拓を進め、当期において358の会計事務所、地銀等21行、証券会社2社と提携。販売ネットワークの拡大により、出資金販売が伸長。

## ▶ **資金調達枠の拡大**

三井住友銀行（シンジケート）と53.5億円（2012年10月）、みずほ銀行（シンジケート）と29億円（2012年11月）、千葉銀行（シンジケート）と9億円（2012年11月）、三菱東京UFJ銀行（シンジケート）と31億円（2013年3月）、第四銀行と8億円（2013年4月）、東京スター銀行と10億円（2013年5月）、りそな銀行と10億円（2013年9月）のコミットメントライン契約を締結。また、三井住友銀行と30億円（2013年7月の融資契約を締結し、9月末時点の資金調達枠は219.5億円へと拡大。

## ▶ **案件組成の拡大**

強い投資家需要に対応するため、案件組成の拡大に注力。既存の賃借人からのリピート案件に加え、新規賃借人となる大手航空会社・航空機リース会社から案件を獲得。航空機等の大型案件を複数組成したことで組成金額が拡大。

その他

管理面

人員増強

## ▶ **積極的な人員増強**

営業部門を中心に積極的に人員を増強。当期末（連結）における従業員数は、前年同期期末（単体）55名から81名（連結）となり26名の増加。



## その他事業

- ▶ 保険仲立人事業における商品の拡大  
生保・損保の仲立人の取扱いにおいて、生保を中心として順調な売上を記録、当期の売上高は173百万円。(前年同期66百万円増)
- ▶ M & A ニーズの開拓に注力  
M&Aアドバイザー事業において複数の案件をクローズ。売上高は19百万円。会計事務所からの売却案件は増加傾向。
- ▶ 不動産関連事業の開始  
本年6月に国土交通省より不動産特定共同事業のライセンスを取得し、8月より不動産小口化商品第1号案件及び第2号案件の販売を開始。売上高は59百万円。
- ▶ 証券事業の開始  
本年8月より、少数精鋭の専門家集団として、外国為替取引分野を中心としたブティック型の証券会社を志向し、通貨関連店頭デリバティブ商品の提供開始。

## その他トピックス

- ▶ 2012年10月22日 東証第一部に上場  
2010年9月のJASDAQ上場後、わずか2年で東証第一部市場に上場
- ▶ 2013年3月 フィンテックグローバル証券の株式を160百万で取得し、FPG証券へ商号変更し、証券業への進出。
- ▶ 2013年5月 中間記念配当を実施  
東証第一部上場を記念して中間記念配当5円を実施。
- ▶ 2013年6月1日付(効力発生日)で1:3の株式分割を実施

# 2013年9月期 トピックス

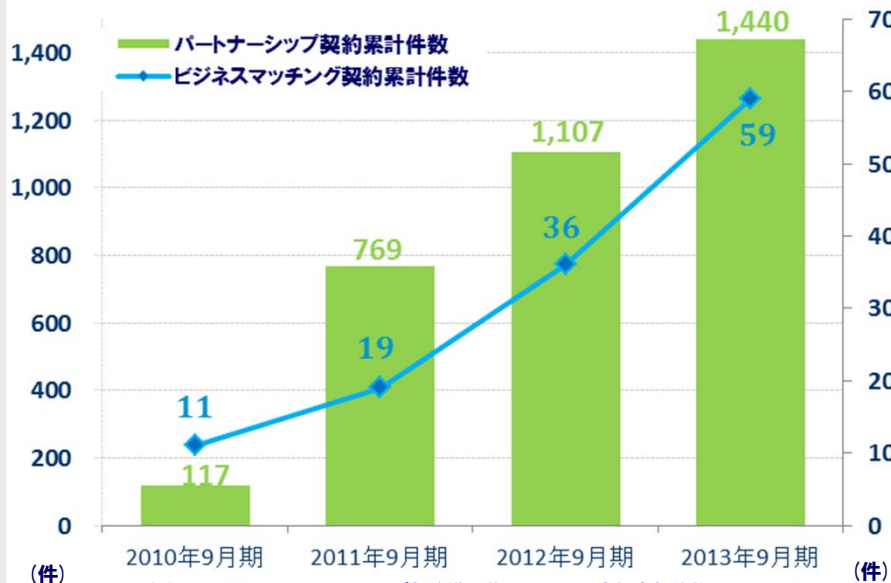
- ◆全国の会計事務所とのパートナーシップ契約を積極推進、販売網を拡充
- ◆金融機関、特に地銀との提携（ビジネスマッチング契約）により投資家紹介が加速

8,000件を超える  
会計事務所に  
アプローチが可能  
1,400を超える  
事務所と提携  
◆今期提携数  
・358事務所



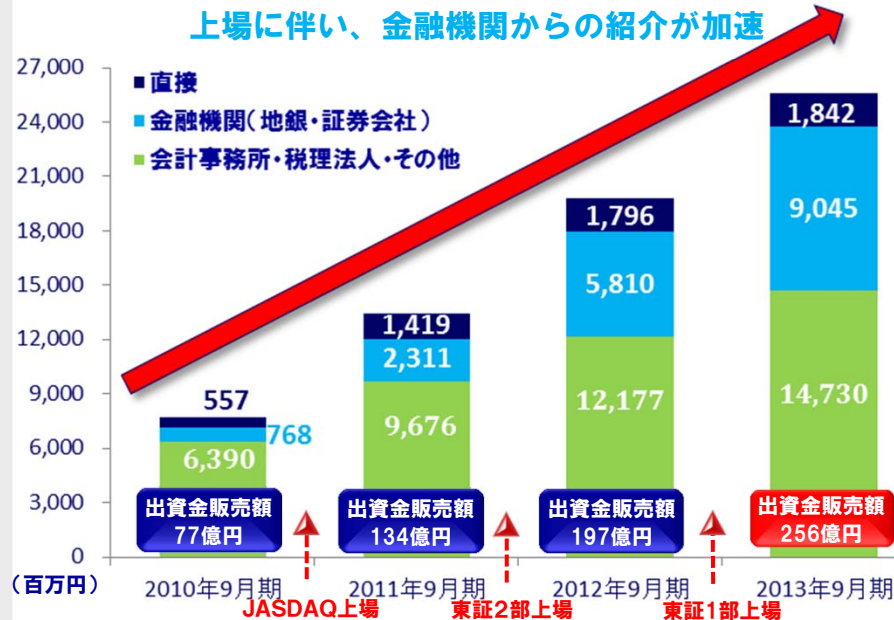
合計提携数  
地銀等49行  
証券会社10社  
◆今期提携数  
・地銀等21行  
・証券会社2社

会計事務所とのパートナーシップ契約件数と  
金融機関とのビジネスマッチング契約件数（累計）



\*2010年においてはパートナーシップ契約導入前であり、顧客紹介契約数をカウント。  
2011年度以降においてはパートナーシップ契約数のみをカウント。

会計事務所ルートと金融機関ルートによる  
出資金販売額の推移



上場に伴い、金融機関からの紹介が加速

JASDAQ上場 東証2部上場 東証1部上場



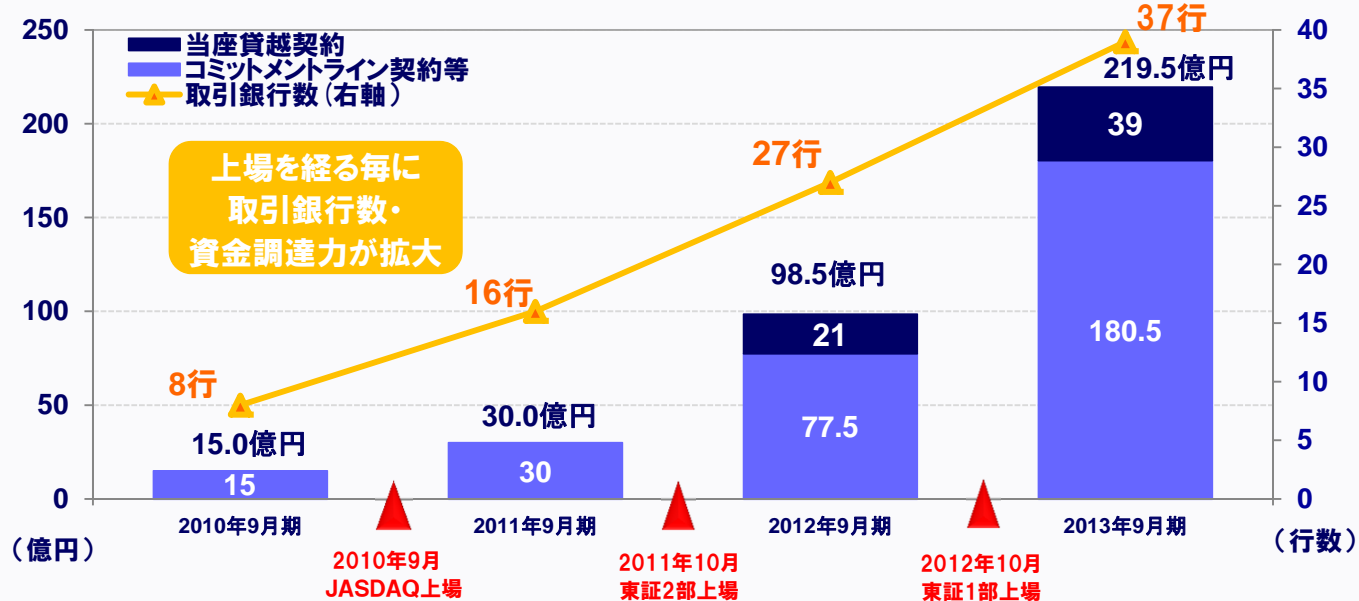
## ▶ 資金調達力の拡大

前期末98.5億円であった資金調達枠は219.5億円に飛躍的に拡大。

### コミットメントライン融資枠契約を拡大（5億円以上）

- ◆2012年10月 三井住友銀行（シンジケート）：53.5億円
- ◆2012年11月 みずほ銀行（シンジケート）：29億円
- ◆2012年11月 千葉銀行（シンジケート）：9億円
- ◆2013年3月 三菱東京UFJ銀行（シンジケート）：31億円
- ◆2013年4月 第四銀行：8億円（3億円の純増）
- ◆2013年5月 東京スター銀行：10億円（5億円の純増）
- ◆2013年9月 りそな銀行：10億円（2億円の純増）

当座貸越契約も拡大し、総額39億円へ。





## 案件組成（航空機）の拡大

新規賃借人7社との取引を開始、リピート案件を獲得。

欧州一流航空会社を新規賃借人とする航空機2機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2012年10月25日及び11月21日
- リース対象物件：B737-800型 航空機2機

アジア大手航空会社を新規賃借人とする航空機2機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2012年12月3日及び12月21日
- リース対象物件：A320-200型 航空機2機

リピート案件として、欧州一流航空会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年3月26日
- リース対象物件：B737-900型 航空機1機

欧州大手航空機リース会社を新規賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年4月25日
- リース対象物件：A320-200型 航空機1機

米大手航空機リース会社を新規賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年5月30日
- リース対象物件：B737-800型 航空機1機

アジア・パシフィック地域における一流航空会社を新規賃借人とする航空機2機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年6月3日及び7月8日
- リース対象物件：B737-800型 航空機2機

欧州一流航空会社を新規賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年9月19日
- リース対象物件：A380型 航空機1機

リピート案件として、米大手航空機リース会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年9月17日
- リース対象物件：B737-800型 航空機1機

アジア一流航空会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年9月19日
- リース対象物件：B737-800型 航空機1機

# 2013年9月期 營業概況



## ◆ 好調な販売 出資金販売額は前年同期億58億円増の256億円へ

### 販売の状況

東証一部上場に伴う信用力・知名度の向上により、会計事務所・地銀・証券会社との提携が拡大。結果、投資家（顧客）紹介が進み、出資金販売は極めて好調に推移した。当期においては、復興特需企業からの出資ニーズ、事業承継による大口出資等も見られるなど、投資家（顧客）からの引き合いは非常に強く、既存顧客からのリピートニーズに対応するとともに、新規投資家（顧客）の獲得に努めた。

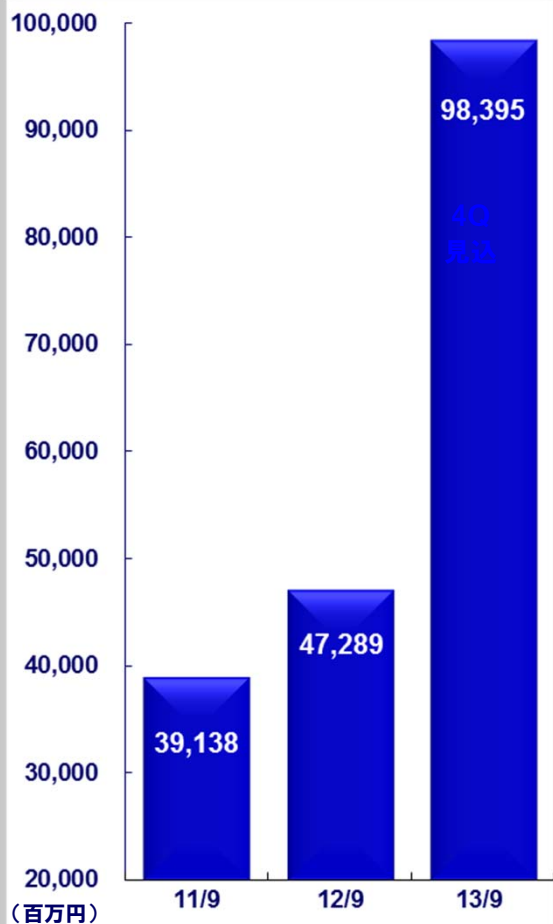
## ◆ 組成の拡大 新規賃借人7社との取引を開始、組成金額は983億円へ

### 組成の状況

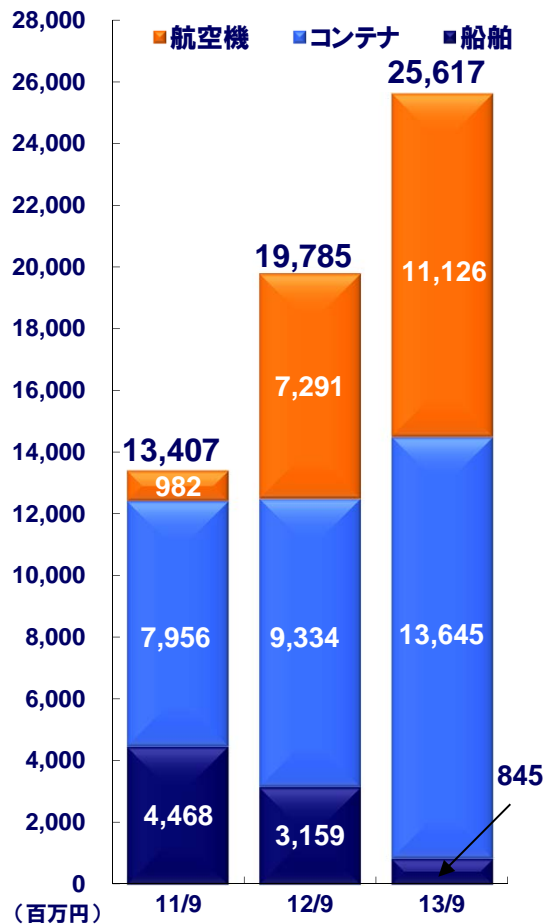
欧州一流航空会社からのリピート案件の獲得に加え、航空機案件において、新規賃借人7社と新たな取引を開始するなど、案件の獲得・組成に注力した。また、前期に組成したアジア大手航空機リース会社であるCDB Leasing Co.,Ltdを賃借人とした航空機案件が「Air Finance Journal」の「Tax Lease Deal of The Year 2012」を受賞。案件組成において第三者から高い評価を獲得したことが、新規賃借人の獲得に繋がった。

(百万円)		2012年9月期	2013年9月期	増減	増減率
リース事業組成金額		47,289	98,395	51,106	108.1%
出資金販売額	船舶	19,785	25,617	5,832	29.5%
	コンテナ	3,159	845	△ 2,313	△73.2%
	航空機	9,334	13,645	4,311	46.2%
購入社数		7,291	11,126	3,834	52.6%
タックス・リース・アレンジメント事業売上高		414	646	232	56.0%
		2,665	3,747	1,082	40.6%

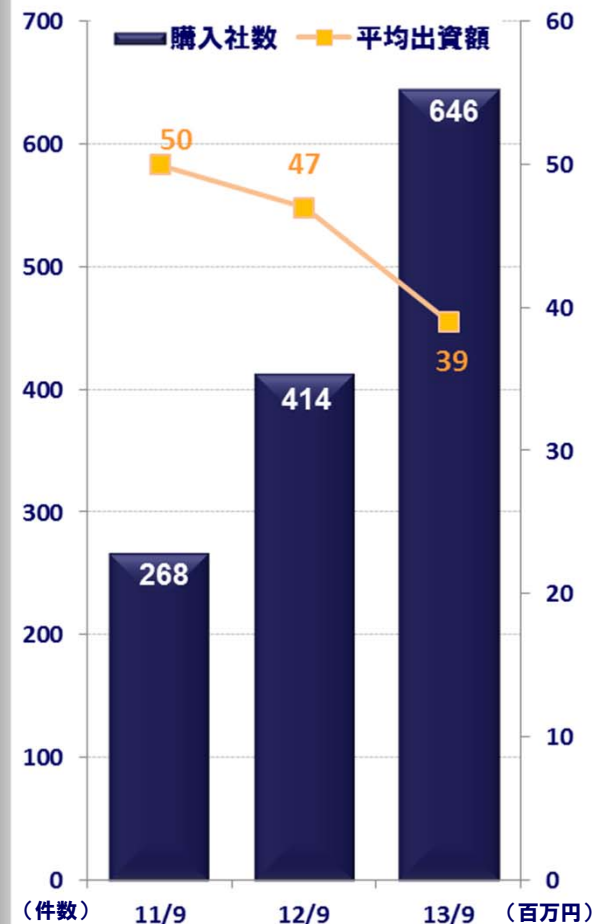
## リース事業組成金額



## リース物件別 出資金販売額

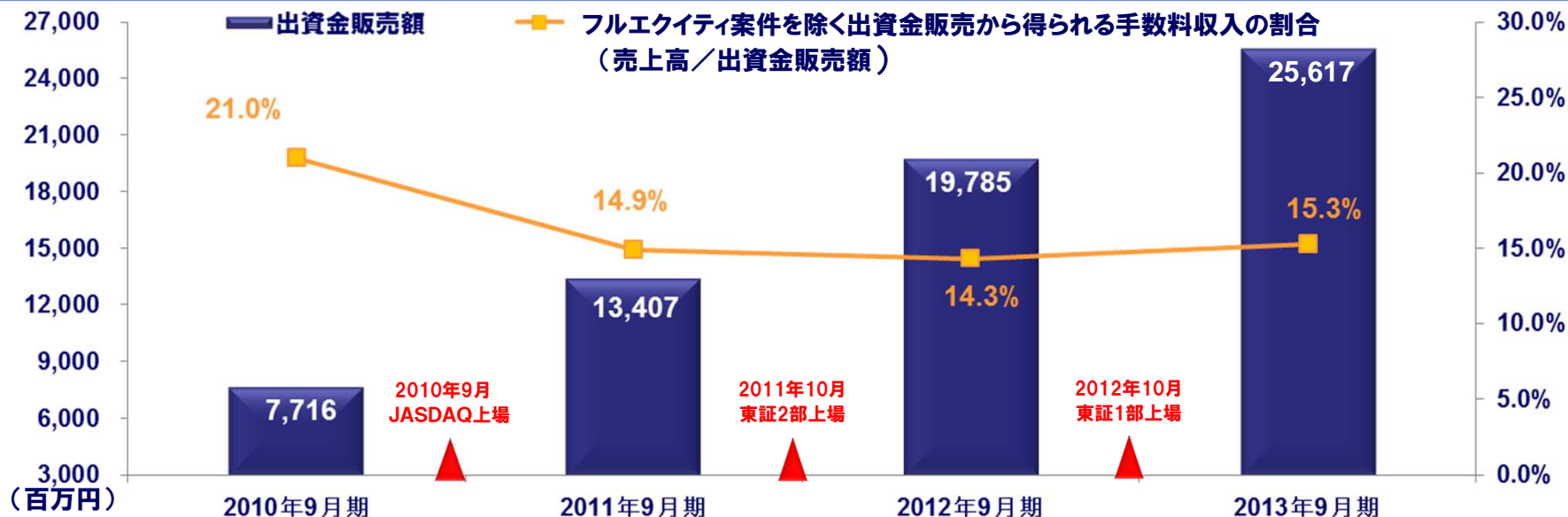


## 購入社数





# 2013年9月期 出資金販売から得られる手数料収入



(百万円)	2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期
タックスリースアレンジメント 事業の売上高	1,616	1,926	2,665	3,747
出資金販売額	7,716	13,407	19,785	25,617
フルエクイティ案件*を 除く出資金販売から得られる 手数料収入の割合 (売上高/出資金販売額)	21.0%	14.9%	14.3%	15.3%

\* フルエクイティ案件:

通常、オペレーティングリース事業を組成する際、借入金及び出資金にて資金調達を行うが、フルエクイティの案件の場合、借入金を調達せず、すべて投資家からの出資金にて資金調達する。

## 上場前

2010年までは、上場前であり、資金調達力不足のため、利益率の高い案件のみを選別して実行。結果、収益性が21%と高い水準に。

## 上場後

上場により信用力が向上し、資金調達力が拡大。旺盛な投資家需要への対応により、上場前には見送っていた案件も、積極的に組成。この結果、上場後の収益性は14%台に低下した。しかしながら、他の金融商品に比べ、引き続き高い収益性を維持。

## 当期

当期においては収益性の高い商品を確保、また、組成・販売したことにより、収益性が改善。



# 株式分割及び株主優待について

## ▶ 1対3の株式分割を実施

2013年6月1日を効力発生日として1:3の株式分割を実施。

### ■ 分割に伴う発行済株式数の変更

	発行済株式数
分割前株式数	8,528,400株
分割後株式数	25,585,200株

※2013年9月末日時点:26,017,200株

### ■ 分割に伴う配当(予想)金額の変更

	2012年9月期			2013年9月期		
	中間	期末	通期	中間	期末	通期
分割後 配当金※	1.67円	10.67円	12.34円	1.67円	14.67円	16.34円
配当性向	34.6%			35.1% (連結)		

※当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を記載。

## ▶ 株主優待に関して

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資の魅力を上向きさせ、より多くの株主様に中長期的に保有していただけることを目的として、2012年3月末現在の株主様より株主優待を実施。

### ■ 対象株主

毎年9月末及び3月末現在の株主名簿に記載された当社株式3単元(300株)\*以上保有の株主様を対象に年2回実施 \*当該株式分割を加味

### ■ 分割に伴う株主優待贈呈基準の変更

	贈呈基準(保有株式数)	
	1,000円相当 クオカード1枚	3,000円相当 クオカード1枚
分割前	100株以上1,000株未満	1,000株以上
分割後	300株以上3,000株未満	3,000株以上

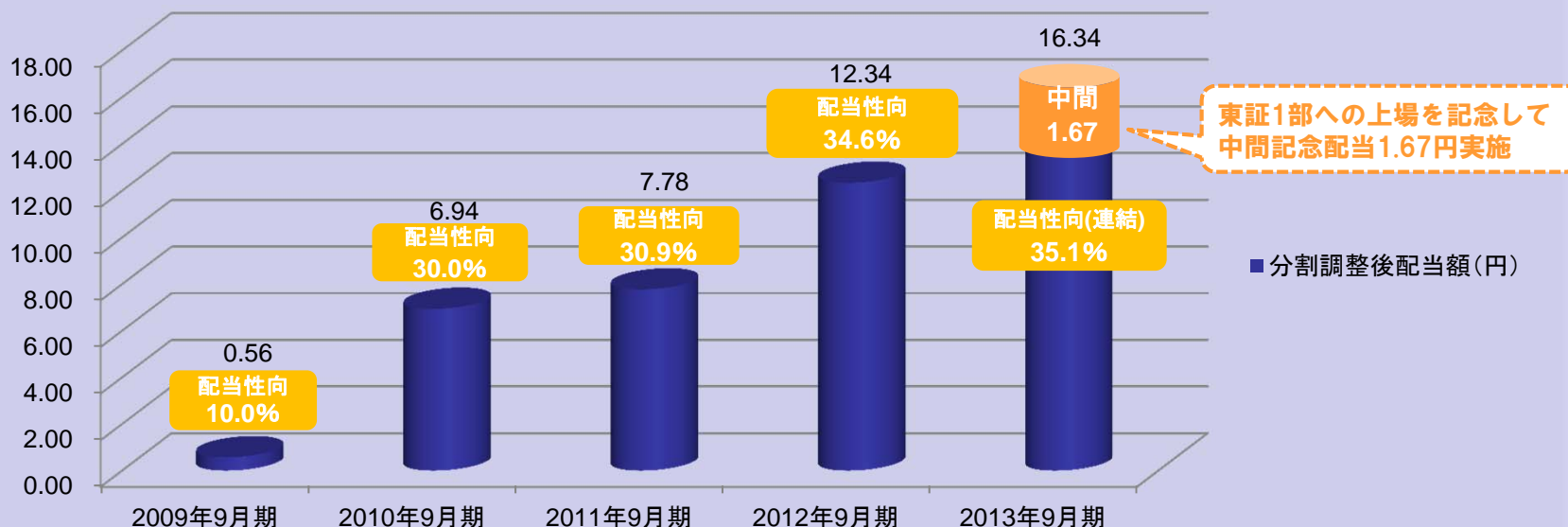


## 期末配当(予想)を4円増配 12.34円→16.34円へ

経営基盤の強化と事業機会を確実に捉えるために、十分な内部留保を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ適切な利益を還元することが配当政策上重要であると考えており、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案し、目標配当性向を概ね30%以上に設定。

◆2013年9月期期末配当(予想)10.67円→14.67円へ増配

年間配当予想は16.34円(配当性向35.1%)



(注)当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を記載。


# 2013年9月期 財務ハイライト



# 2013年9月期 損益計算書

(百万円)	2012年 9月期	2013年 9月期	増減	増減率
売上高	2,802	4,012	1,210	43.2%
売上原価	405	600	195	48.2%
売上総利益	2,397	3,411	1,014	42.3%
販売費及び一般管理費	959	1,327	368	38.4%
営業利益	1,438	2,084	646	44.9%
営業外収益	109	87	△21	△19.7%
受取利息	93	49	△44	△47.2%
為替差益	12	9	△3	△24.2%
その他	3	28	25	779.8%
営業外費用	154	211	56	36.3%
支払利息	81	53	△28	△34.8%
支払手数料	70	153	83	118.5%
その他	3	4	1	32.6%
経常利益	1,392	1,961	568	40.8%
特別損失	1	0	△0	△55.2%
税引前純利益	1,390	1,960	569	41.0%
法人税、住民税及び事業税	660	967	307	46.5%
法人税等調整額	△63	△193	△130	△206.5%
法人税等合計	597	774	176	29.6%
当期純利益	793	1,185	392	49.5%

**1 売上高 4,012百万円 (+1,210百万円)**  
 (タックス・リース・アレンジメント事業売上高) 3,747百万円  
 (保険仲立人事業売上高) 173百万円  
 (M&Aアドバイザー事業売上高) 19百万円  
 (不動産関連事業売上高) 59百万円

**2 売上原価 600百万円 (+195百万円)**  
 案件組成コスト 125百万円(前年同期 49百万円)  
 顧客紹介者への紹介手数料 475百万円(前年同期146百万円)  
 案件組成の拡大及び出資金販売が進んだことにより、  
 案件組成コスト、紹介手数料ともに増加。

**3 営業利益 2,084百万円 (+646百万円)**  
 業容拡大のため、営業部門を中心に積極的に人材採用を進めたこと  
 から、従業員数が前年同期末(単体)55名から当期末81名(連結)に増加し、  
 販管費は前期末比368百万円増加したものの、売上高の増加がコストを吸収、  
 営業利益は前年同期比+44.9%の増益となった。

**4 経常利益 1,961百万円 (+568百万円)**  
 営業外費用は、支払利息が81百万円から53百万円に減少したものの、  
 コミットメントライン契約の拡大に伴い、支払手数料が153百万円に増加した  
 こと等から211百万円に増加(前年同期比+36.3%)した。しかしながら、  
 出資金販売額が総じて好調に推移したことから、営業利益が大幅に増加  
 (営業外収益はほぼ横ばい)した結果、経常利益も1,961百万円に増加  
 (前年同期比+40.8%)した。

※ 2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しており、2012年9月期の数値は、参考値として個別業績の数値を記載しております。

# 2013年9月期 貸借対照表

資産 (百万円)	2012年9月期 期末	2013年9月期 期末	増減
流動資産	5,492	19,185	13,693
現金及び預金	1,987	3,840	1,853
商品出資金	3,152	13,436	10,283
組成用不動産	—	1,208	1,208
その他 流動資産	352	700	347
固定資産	426	1,055	628
資産合計	5,919	20,240	14,321
負債 (百万円)	2012年9月期 期末	2013年9月期 期末	増減
流動負債	3,096	15,355	12,258
短期借入金	1,607	12,086	10,479
1年内返済予定の長期借入金	121	200	78
前受金	557	1,838	1,281
その他 流動負債	811	1,230	419
固定負債	271	395	124
長期借入金	200	300	100
その他 固定負債	71	95	24
負債合計	3,368	15,751	12,382
純資産 (百万円)	2012年9月期 期末	2013年9月期 期末	増減
資本金	338	851	513
資本剰余金	288	801	513
利益剰余金	1,924	2,833	909
自己株式	△0	△0	—
為替換算調整勘定	—	2	2
純資産合計	2,551	4,489	1,938
負債純資産合計	5,919	20,240	14,321

## ① 商品出資金 13,436百万円 (+10,283百万円)

旺盛な投資家需要に対応すべく、積極的に案件組成を行った結果、商品出資金は前期末と比べて、10,283百万円の大増加。

商品出資金の推移



## ② 組成用不動産1,208百万円

本年7月より、不動産特定共同事業開始。組成用不動産は1,208百万円。

## ③ 前受金1,838百万円(+1,281百万円)

翌期以降の販売を見据えた積極的な組成による商品出資金の大増加(+10,283百万円)に伴い、当該出資金の手数料である前受金も増加した。

## ④ 長短借入金(社債含む)12,636百万円(+10,638百万円)

積極的に案件組成を進め、商品出資金を積み増した結果、商品出資金の立替資金となる借入金が増加。

## ⑤ 純資産 4,489百万円 (+1,938百万円)

公募増資・第三者割当増資により資本金及び資本準備金の増加、当期純利益1,185百万円を計上したこと等により、純資産は前期末に比べ1,938百万円増加し、4,489百万円となった。

その結果、自己資本比率は、前期末43.1%から22.2%へ低下したが、これは、商品出資金を大きく積み増したことによるものである。

※ 2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しており、2012年9月期の数値は参考値として個別業績の数値を記載しております。



(百万円)	2012年9月期 期末	2013年9月期 期末
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,842	△8,952
投資活動によるキャッシュ・フロー	△71	△426
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,010	11,230
現金及び現金同等物残高	1,987	3,840

1

## 営業活動によるCF

税引前当期純利益が増加した一方で、積極的な組成により、商品出資金が増加したこと等から、営業活動で使用した資金は8,952百万円(前年同期は、1,842百万円の資金収入)。

2

## 投資活動によるCF

本社移転に備えた敷金差入に加え、移転前の本社拡充・大阪支店移転等に伴う敷金の差入があったこと株式会社FPG証券の株式取得による支出があったこと等から、投資活動において使用した資金は426百万円(前年同期は、71百万円の資金支出)

3

## 財務活動によるCF

平成24年10月から11月の公募増資及び第三者割当増資等による株式の発行による収入があった一方で商品出資金の取得資金のための借入金が増加したこと等から、財務活動から得られた資金は、11,230百万円(前年同期は、借り入れの返済を進めたことから、2,010百万円の資金支出)。



## 商品出資金(在庫)及び借入金の増減により大きく変動する自己資本比率

商品出資金の立替資金は主にコミットメントライン融資枠等の短期借入金で調達しており、商品出資金の増加に応じて短期借入金は増加、商品出資金の販売に応じて短期借入金は減少する。

BSに占める短期借入金及び商品出資金のウェイトは大きく(概ねBSの30~70%程度)、案件組成に伴う商品出資金の増加・販売に応じて、当社のBS及び自己資本比率は、大きく変動する傾向にある。

貸借対照表内訳 (百万円)	2012年 9月末	2013年 9月末
総資産	5,919	20,240
うち 現金及び預金	1,987	3,840
うち 商品出資金	3,152	13,436
うち 組成用不動産	—	1,208
負債合計	3,368	15,751
うち 借入金・社債合計	1,998	12,636
うち 短期借入金	1,607	12,086
純資産合計	2,551	4,489

(注) 2013年7月より、不動産特定共同事業開始。

実績値		2012年 9月末	2013年 9月末
(百万円)	総資産	5,919	20,240
	純資産	2,551	4,489
	自己資本比率	43.1%	22.2%

商品出資金等を 控除した場合		2012年 9月末	2013年 9月末
(百万円)	商品出資金を 控除した総資産	2,766	5,595
	純資産	2,551	4,489
	自己資本比率	92.2%	80.2%

# 2014年9月期 業績予想 中期的な経営戦略



## 5期連続の増収増益に向け、最高益更新を目指す

(百万円)	2012年9月期 実績	2013年9月期 実績 (A)	2014年9月期 予想 (B)	増減 (B-A)	増減率	2014年9月期 第2四半期
売上高	2,802	4,012	5,200	1,187	29.6%	2,671
営業利益	1,438	2,084	2,373	289	13.9%	1,277
経常利益	1,392	1,961	2,200	239	12.2%	1,061
当期(四半期)純利益	793	1,185	1,316	130	11.0%	631
リース事業組成金額	47,289	98,395	115,090	16,694	17.0%	-
出資金販売額	19,785	25,617	30,000	4,382	17.1%	-



# 2014年9月期 通期業績予想

## 事業環境：

2012年10月22日、東証1部に上場。上場効果による信用力の向上に伴い、資金調達力、案件組成能力、販売力のより一層の拡大を見込む。

## タックス・リース・アレンジメント事業：

### 販売面：

景気回復基調を背景に企業業績の向上が見込まれ、投資家需要は引き続き好調に推移する見通し。顧客からのリピートニーズに対応し、安定的な販売、営業拠点の拡充により、地域に密着した積極的な投資家開拓等により、出資金販売額30,000百万円(当期比+17.1%)を予想。

### 組成面：

#### 安定的な案件供給体制の構築

既存賃借人のリピート及び新規開拓・組成能力の向上等により、リース事業の組成金額は、115,090百万円(当期比+17.0%)を予想。

## その他事業(不動産関連事業、保険仲立人、M&Aアドバイザー等)：

既存紹介ネットワークを活用したタックス・リース・アレンジメント事業とのシナジー効果により収益の拡大を見込む。

## ①成長戦略(事業多角化)の推進～(2桁成長確保(増収増益)～

- タックス・リース・アレンジメント分野における更なる収益の拡大
- 収益構造の多角化 ～高収益な中小企業及び富裕層をターゲットとしたワンストップ型総合金融サービス会社へ～

## ② 経営基盤の強化

- 安定かつ機動的な資金の確保
- 業務プロセス改革による安定的な経営組織の構築  
グループマネジメント、社内システム基盤の構築、スピード経営の体制確立  
優秀な人材の確保、社員教育制度の確立
- 内部統制・リスク管理・コンプライアンス体制の更なる強化
- 積極的な投資家説明会・IR MTGの実施、アニュアルレポート作成、海外投資家向けIRの実施→株式の長期保有促進



## タックスリースアレンジメント事業の強化

### 組成面

- ◆ 旺盛な投資家ニーズに対応した案件供給体制の構築
- ◆ 欧州合併会社の機能強化による組成能力の向上、新規賃借人の開拓
- ◆ 組成の拡大に対応した資金調達力の確保

### 販売面

- ◆ 会計事務所とのパートナーシップ契約及び地銀を中心とした金融機関とのアライアンスの推進による販売ネットワークの拡充
- ◆ 中小企業の事業承継対策への対応

需要(投資家ニーズ)と供給(案件組成)のバランスを保ち、効率的なオペレーションを追求  
→ 出資金販売額 **400億円** の達成を目指す

## 収益構造の多角化 (その他事業)

### 保険仲立人事業

- ◆ 取扱保険会社の拡大による保険商品の拡充
- ◆ 販売ネットワークを活用し、既存・潜在顧客に対して保険商品を提案

### M&Aアドバイザー事業

- ◆ 販売ネットワーク(会計事務所、金融機関等)を活用した M&A案件の獲得とマッチングの促進
- ◆ 中小企業経営者の後継者不在問題に対応し成約件数の拡大

### 不動産関連事業

- ◆ 紹介ネットワーク(会計事務所・金融機関)への商品認知の向上
- ◆ 新たな投資家層の開拓(地主、医者等の個人富裕層)

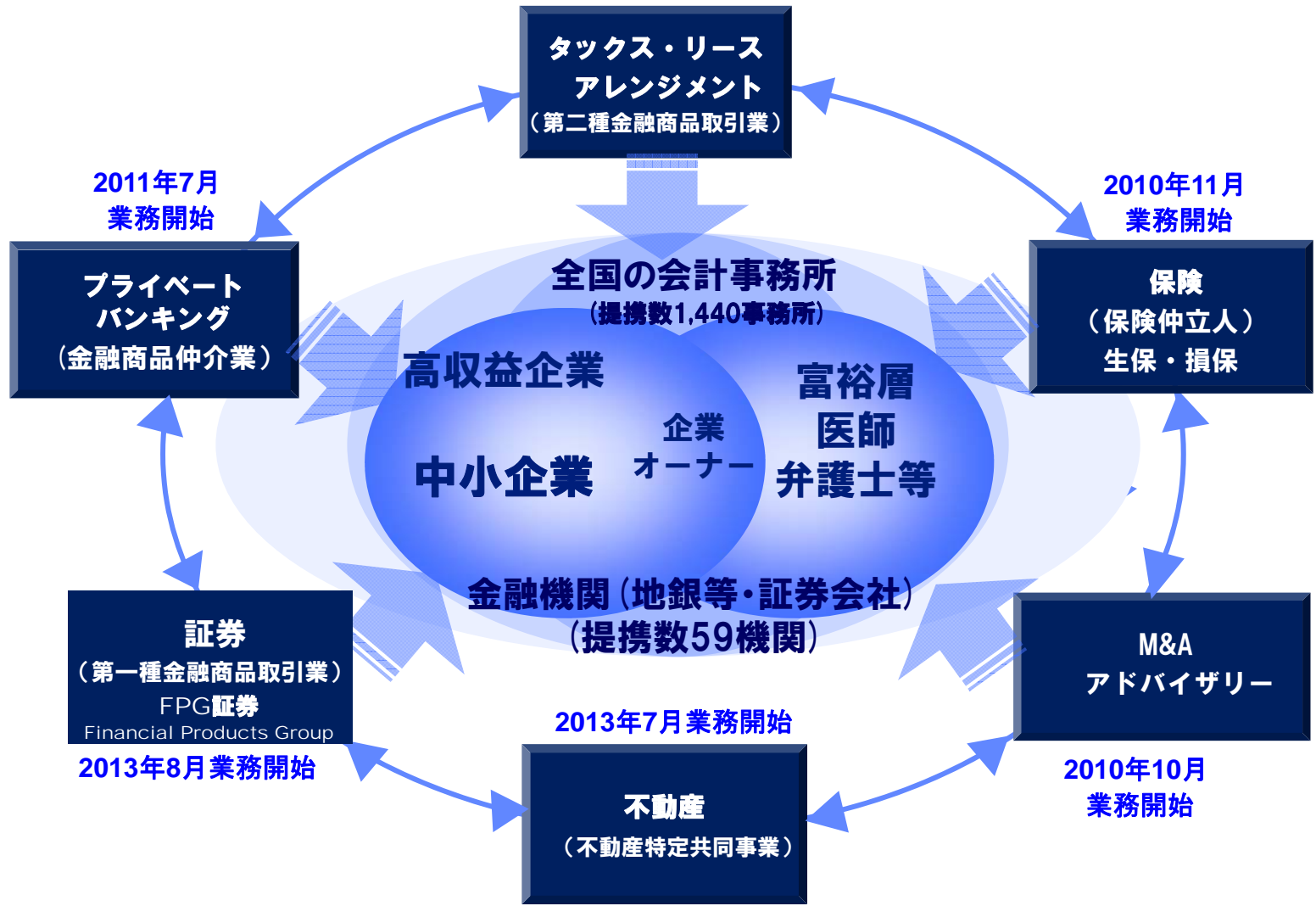
### 証券事業

- ◆ 事業基盤の確立  
システム導入、業務整備
- ◆ シナジーの最大化  
営業人員増強  
FPG顧客への本格展開  
FPG紹介ネットワークの活用



# 事業概略図 収益構造の多角化に向けた取組み

顧客満足の追求に向けて、提供サービスに証券・不動産関連事業を追加。本業とのシナジーも見込める事業を展開し、収益構造の多角化を目指す。



# 主要な経営指標の推移

決算年月	2009年9月期	2010年9月期	2011年9月期	2012年9月期	2013年9月期
売上高 (百万円)	856	1,621	1,992	2,802	4,012
経常利益 (百万円)	242	773	967	1,392	1,961
当期純利益 (百万円)	99	444	557	793	1,185
資本金 (百万円)	66	332	334	338	851
発行済株式総数 (株)	1,056	1,231,300	2,470,600	7,501,800	26,017,200
純資産額 (百万円)	586	1,553	1,958	2,551	4,489
総資産額 (百万円)	1,539	2,366	6,589	5,919	20,240
1株当たり純資産額 (円)	30.87	70.08	88.10	113.36	172.57
1株当たり配当額 (円)	0.56	6.94	7.78	12.34	16.34
1株当たり当期純利益 (円)	5.55	23.16	25.15	35.66	46.60
ROE (%)	19.0	41.6	31.7	35.2	33.7
自己資本比率 (%)	38.1	65.6	29.7	43.1	22.2
配当性向 (%)	10.0	30.0	30.9	34.6	35.1
営業活動によるCF (百万円)	676	11	△1,679	1,842	△8,952
投資活動によるCF (百万円)	△110	△51	△71	△71	△426
財務活動によるCF (百万円)	△280	△207	3,493	△2,010	11,230
現金及び現金同等物の期末残高(百万円)	731	482	2,226	1,987	3,840
従業員数 (人)	20	27	33	55	81

(注)2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しているため、2012年9月期以前の数値は、参考値として個別業績の数値を記載しております。  
また、一株当たり情報に関しては株式分割の影響を調整しております。

# 本資料における注意事項等

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

## 【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG IR担当

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>